

SOS ニュース

「内定者つなぎ留め過熱」

～「就活終了を」強要する企業も 文科省、実態調査へ～

来春卒業する大学生らの就職活動が学生有利の「売り手市場」で進む中、企業が内定や内々定を出した学生に、活動を終えるよう働きを強めている。一部では過剰な行為が「終われハラスメント（オワハラ）」などと呼ばれて問題化するケースも。学生の自由選択を妨げれば違法行為となるおそれもあり、文部科学省は今年度、初の実態調査に乗り出す方針だ。・・・・・・・・

オワハラが問題化した背景には、経団連が今年から新卒採用に関する指針を見直し、採用選考の開始時期を従来より4ヶ月遅らせて8月1日としたことがある。外資系や非経団連系の企業は指針に縛られず、早い段階で選考を行える。経団連加盟企業が、インターシップなどを通じて実質的な選考を前倒しで行うことも多いとされる。

このため「早めに採用選考をする企業ほど内定辞退を警戒し、オワハラが増えやすい状況が生まれている」（明治大キャリア支援センターの担当者）。同センターには昨年の就活でも「『内定を辞退したら訴える』と言われた」といった相談があったという。

……つい先だってまで、若者にとっては冬の時代が続き、それこそ「大学は出たけれど」的な様相を呈していたと思ったら、世の中はここ数年でバブル期なみの就活戦線、リーマンショック前に戻ったとも囁かれています。売り手市場で新入社員が職場に沢山散って行くのは良いことではありますが、入る前からハラスメントはいただけません。やはり金のたまごに違いはないのですから、大事に育てていく社会にしたいものです ……